

平成 元年 12 月 15 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

初冬の永山丘陵を歩く

永山丘陵は青梅宿の裏山として、日向和田から勝沼までのびている丘陵です。樹木におおわれているため、季節の移り変わりによっても趣も少しずつ異なり、屏風のようにのびる丘陵の以前はいつまでもこのまま残したいものです。今回は、丘陵を宮の平から勝沼へ、史跡を見ながら歩くことにしましょう。

宮の平駅は、現在は小さな無人の駅ですが、この駅こそ青梅線開通の原動力となったもので、明治 28 年 12 月に設けられました。すなわち、現在、金木石材の採石場となっているところは、かつては「要害山」と呼ばれる小高い石灰岩の山でした。その石灰岩を東京や川崎に運ぶために青梅線が設けられたわけです。採石や運搬のための引込線の跡が、駅の北側から山の中へ今も残っており、引込線の先には石灰石を焼いて石灰^{いしばい}を作った窯跡も残っています。

駅から 5・6 分歩くと、ハイキングコースの入口で案内板が立っており、そこからは林の中に入ります。林の中の山道を約 25 分登ると、展望が非常によい所に着きます。手前には多摩川の清らかな流れや青梅宿が手に取るように見え、天気の良い日には立川はもちろんのこと、都心の高層ビルもよく見えます。ここから矢倉台までは、ゆっくり歩いて約 10 分です。ここは、その昔、見張り台が置かれていたと思われる、とても見晴らしがよい所です。

矢倉台から東への尾根道は、全体として下り道で、琴平神社に向かう途中には 4 ヲ所に休憩所も設けられています。途中の叢雨橋^{むらさめ}の下は、森下と黒沢下栃谷を結ぶ“青梅坂”と呼ばれる峠です。黒沢や成木といった市内北部と青梅や和田などの市内南部を結ぶ重要な峠でしたが、昭和 52 年（1977）にトンネルが作られたため、峠付近の旧道は少しずつ荒れてきました。

琴平神社は、青梅宿のすぐ上にあるため、日頃から参拝者がたえません。鳥居の横には十二方角所碑が立てられています。高さ約 1.3 メートルのこの碑は、寛政 9 年（1797）に立てられたものです。石碑は十二支を刻んだ十二角の角柱で、角方面ごとに筑波山、箱根鎌倉など、それぞれの方向にある名所および説明が漢文で刻まれています。一方、神社の裏には亀を土台にした妙見^七星項権王の碑、および和歌の碑が立っています。

琴平神社からは、住吉神社に向かい、参拝した後、境内にある小林天淵の筆塚や根岸嶮谷（典則）の碑などを見学するとよいでしょう。また鉄道公園や風の子太陽の子広場で過ごすのも楽しいでしょう。

（文責 角田清美）